

# 生活科部会

## 研究主題 子どもが生き生きと活動するための教師の支援の在り方

### 1 主題について

今年度も、児童の主体的な活動を促すための手立てを研究するため、気づきの質を高める支援の在り方を中心とした授業づくりをめざし、本主題を設定した。

### 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月30日	第2回総合研究会 授業研究会（川口小学校）
8月19日	指導案検討会（川口小学校）		

### 3 研究内容

#### (1) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月30日（木）
- ・会 場 川口小学校
- ・単元名 2年「もっとなかよし まちたんけん」
- ・授業者 榎 綾  
阿部 英幸

#### ① 授業者から

- ・時間の中でどれだけ子どもに活動させ、どれだけ子どもの気づきの質を高められるか考えて臨んだ。2回目の町探検は、川口の「人」に焦点を当てる活動にした。
- ・「すてき」にはいろいろなとらえ方があるが、児童のつぶやきを拾いながら気づきをまとめ、最後に「すてきな町だね」とまとめようと考えていた。
- ・子どもが感じたことや気づきをどのようにして共有化させようか悩んだ。シートに書かせた中から教師が意図的に選び、板書にまとめようと考えていたが、ねらったつぶやきを引き出すこと、また、よいつぶやきを全体へ広めることが難しかった。
- ・気づきの質による色分けをしたことで、ただの発表会で終わるのではなく、自分との関わりの中から生まれる気づき、川口の人の思いに触れた気づきというように、よりよい気づきに仕上がったが実態に合っていなかった。

#### ② 協議

- ・劇とポスターという伝える手段がよかった。子どもがなりきって活動に取り組んでいた。
- ・地域の人の顔写真が子どもの注意を惹きつけていた。
- ・カードの色分けの意図を子どもへも意識付けすることで、ねらいに迫ることができたのではないか。
- ・書く活動を絞る必要がある。2回目に書かせる内容がねらいに迫る活動であれば、1回目のシートへの記入は、マークで簡単に記入させ、そのマークを付けた理由を問うことで質の高い気づきに繋げる方法も考えられるのではないか。
- ・発表がすばらしく、発表の中の感想が地域の人のよいところを見付けている感想だった。個の感想を全体の気づきに生かす工夫を考えたい。事前に感想を把握し、お手本代わりに意図的に板書に残すことなどが考えられるのではないか。



【色分けカードを貼る様子】

## (2) テーマ研究

《人と関わる力を育て、気付きの質を高める支援の在り方》・・・各校の実践紹介

- ・ 単元計画を工夫し、地域の人との関わりを組み入れることで様々な気づきが生まれた。
- ・ 時期を考えながら学校行事等と関連させ、子どもの気持ちが活動と繋がるようにしている。
- ・ 実感を伴った体験をさせ、それらの活動を支える人や友達と関わる場面を積極的に設けることで、児童の興味関心や好奇心が高まり、活動が広がった。
- ・ 比較、分類、関連付けなど考える活動を多く取り入れたことで質の高い気づきが生まれた。

## (3) 指導助言（北秋田市立合川北小学校 校長 佐藤 洋子）

## ① 授業について

- ・ 1 回目の探検を生かし、子どもの思いや願いを生かした活動になっていた。これまでの活動の積み重ねが伺えた。伝え合い、振り返る場が設定されていた。
- ・ 堂々と発表する子どもたちの表現力が素晴らしかった。さらに伸ばしていくとよい。
- ・ 本時のねらいについて、「伝え合うことができる」に留まらず、学習指導要領にも示されているように、「よさに気付く」ことを始めからねらうべきであったのではないか。
- ・ 色分けカードを用いたことはよいが、子どもの感想や気づきを板書で視覚的に残すことで、思いが共有化されただろう。それが後の学習にも生きていくことになる。
- ・ 感想の内容が、児童が体験し、交流したことから離れていた。「大変だった」で終わるのではなく、「大変だったが地域の人が一生涯懸命であることが嬉しい」など、実際に調べたことを根拠にした地域のよさに着目した発言がもっとあればよかった。

## ② 気づきの質を高め、子どもの主体的な活動を促す手立てについて

- ・ 気づきの定義とは、①対象にする一人一人の認識であること②児童の主体的な活動によって生まれるものであること③知的な側面だけでなく、情緒的な側面も含まれていること④次の活動を誘発するものであることである。
- ・ 気づきには2種類ある。一つ目は、自分との関わりで働きかけ、働き返された人、もの、ことに対する対象への気づきである。二つ目は、自分自身への気づきであり、成長した自分への気づきまでたどり着けるようにすることが自立への基礎に繋がる。
- ・ 対象とじっくり関わるために、繰り返しの活動をする、また、活動したら表現させることが重要である。表現することで、自覚していなかった気づきが明確になる。
- ・ 友達と交流し、伝え合うことで、新しい気づきや疑問を共有することができる。
- ・ 自分についての気づきを促すことで、活動を通して成長した自分への気づきが自己肯定感に繋がり、次の活動へも繋がるので自分のあしあとを振り返らせたいところである。

## 4 成果と課題

## (1) 成果

- ・ 地域に出て行く活動を通して、自分は温かい環境に育てられているという気づきは、自尊感情に繋がる。本時は、いずれ地域に貢献する人材を育成する礎となる大事な時間だった。
- ・ 連携のために大切なことは、先生同士が仲よくなること。保育所の先生方にも参加していただけたことがよかった。



【劇での発表の様子】

## (2) 課題

- ・ 活動を通じた、成長した自分への気づきまでたどり着かせるための手立て。
- ・ 個の気づきを互いに共有させるための教師の支援の在り方。